ソトコト11月号別冊

ソトコト × カワサキ

Colors, Future! Actions

ローカルヒーローズガイドブック 2023

Local Heroes Guidebook 2023

川崎をもっと好きになる一冊。

COLORS, FUTURE! ACTIONS
KAWASAKI 100th

Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

川崎のどんなところが好きですか。お気に入りの場所。ほっとするまちの仲間。ひとりひとりの“好き”をつなぎ、かけ合わせて、いっしょに川崎を育てていこう。このまちに暮らし、このまちを発展させてきたたくさんの人たちに感謝を抱きながら、あたらしい川崎を未来の人たちへとつないでいこう。いろいろな人たちが集まる川崎だからこそ、多様で多彩なアクションを、つぎつぎと。100年目の川崎市ではじまるColors, Future! Actions。“好き”があふれるまちづくりを、さあいっしょに。

2024年、川崎市は市制100周年をむかえます。

企画制作／株式会社ソトコト・ネットワーク 広告部
株式会社TME
デザインスタジオサウスベンド
制作協力／川崎市

100周年を迎える川崎市で、これから、何が起こるのか

1924年（大正13年）、横浜市、横須賀市に続き、神奈川県3番目の市制施行により川崎市が誕生。関東大震災の翌年である。

そして2024年、川崎市は市制100周年の節目を迎える。

これまでに100周年を迎えた都市は意外と多い。近隣都市では、八王子市や千葉市、川越市なども、すでに100年を超えた。

いずれのまちも、節目の年には大規模なイベントや式典が開催され、大いに賑わう。もちろん、川崎市でも同様の行事は行われるが、川崎の市制100周年は、それにとどまらない。

ブランドメッセージに込めた想い

川崎市は2016年、まちの魅力や考え方をあらわす、ブランドメッセージ「Colors, Future! いろいろって未来。」を策定した。これは、多彩な魅力を持つ、川崎の「多様性」が「光の三原色」で表現されたものであり、川崎の未来への可能性を広げていく、あたらしい川崎を生み出していく、という意味が込められている。

川崎市

Colors, Future!
いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。
川崎は、1色ではありません。
あかるく。あざやかに。重なり合う。
明日は、何色の川崎と出会おう。
次の100年へ向けて。
あたらしい川崎を生み出していこう。

100年目の川崎で始まるプラットフォーム

100周年を目前に、「あたらしい川崎」のスタートラインとして、ブランドメッセージをコンセプトに、誰もが自由に参加できる活動のプラットフォーム「Colors, Future! Actions」を、2023年9月に設けた。本誌のタイトルも、ここから付けた。

川崎に住むひと、学ぶひと、働くひと。そして企業や団体。多様な主体が主役となり、力をかけ合わせながら、多彩な「アクション」を起こしていくことを表している。これこそが、川崎ならではの、100周年の姿である。

想いをアクションに導くための、15のテーマ

「さあ、あたらしい川崎を生み出すアクションを起こそう。」とはいっても、実際、何をすればいいのか、戸惑う人は多いだろう。

そこで考え出されたのが、15個のアクションテーマである。

SDGsのアイコンを思い浮かべてほしい。持続可能な活動目標が具体的なイラストで表現されており、一目で意味がわかるようになっている。これと同じく、あたらしい川崎を生み出すアクションを具体的に描きやすいよう、イラストで表現したのが、アクションテーマである。

たとえば、川崎の各地で根付いてきている若者文化を「ACTION04・ネクストジェネレーション」として、このようなアイコンで表現している。

ACTION 04
ネクストジェネレーション

各テーマには関連するアクションの解説も付されており、このテーマでは、「ブレイキンやBMX、スケートボードなど若者文化を広める活動や、若者のアクションを応援する活動」となっている。

日頃の活動に関連づけ、その活動を次の100年に残すような取り組みにすることへの道標となるように、各テーマを設定している。

COLORS, FUTURE! ACTIONS
KAWASAKI 100th

単色とシンプルな線画で表現された15 のアクションテーマ。
洗練されたデザインは、さまざまな活動の懸け橋にもなって、まちに浸透していくであろう。

ACTION 01 グリーン・コミュニティ
ACTION 02 ブランディング
ACTION 03 ビジネス・インキュベーション
ACTION 04 ネクストジェネレーション
ACTION 05 名物フード
ACTION 06 チアアップ
ACTION 07 ナイトタイムエコノミー
ACTION 08 サスティナブル
ACTION 09 イベント・祭
ACTION 10 Well-being
ACTION 11 グローバル
ACTION 12 アート&ミュージック
ACTION 13 スポーツ
ACTION 14 学び
ACTION 15 安全・安心

「ローカルヒーロー」が活躍するまち

ローカルヒーローとは？

さて、本書表紙に、「Local Heroes Guidebook」と書いてあるのにお気づきだろうか。

ここでいう「ローカルヒーロー」とは、多様なジャンルで自分自身が楽しみながら、その活動を通じて地域を住みやすいまちにしたり、盛り上げたりしている人々のことである。読んでいただくと分かるが、彼らの活動は、あたらしい川崎を描き出すきっかけにもなっているのである。

つまり、アクションテーマと、ローカルヒーローの親和性は極めて高いと言えるだろう。

そこで本書では、ローカルヒーローの活動に、アクションテーマを関連づけて紹介している。

ひとつのローカルヒーローに複数のテーマを関連づけることもある。この複数のテーマの関連づけこそが重要で、多様な活動や人がかけ合わさり、新たなアクションが生まれることを表しているのである。

もう、アクションは始まっている

左の写真は川崎駅東口周辺でごみ拾い活動を行っている「グリーンバード川崎駅チーム」と、「スターバックス コーヒー 川崎地区」7店舗、川崎市が連携し、80名が集結して実施したごみ拾いイベント「川崎駅クリーンアップ大作戦」である。

ごみを出さないまち（ACTION08）、きれいで安全なまち（同15）、そしてさまざまな主体が力がかけ合わさるまち（同10）。3つのアクションテーマが融合した取り組みである。

もう、このように、アクションは市内各地で始まっている。これから2024年に向けて、どのようなアクションが新たに生み出されるのだろうか。楽しみである。

ローカルヒーローの活動から、あなたのアクションを考えよう

このあと、本書ではローカルヒーローの活躍を詳しく紹介していく。テーマ設定やヒーローたちの川崎への想いなどにも注目して、読んでみてほしい。

川崎市民に限らない。あなたが、あなたのまちで、これから始めるアクションのヒントが、隠されているかもしれない。

100周年公式サイトにはアクションリポートも掲載

CONTENTS

川崎市内各地で活躍するローカルヒーローを、各アクションに関連するテーマと連動してご紹介！
これからアクションを始めるひとの、ローカルヒーローズガイドブック。

P.5 ライフサイエンスのイノベーション拠点 **キングスカイフロント**

P.8 川崎ゆかりの名を持つクラフトビールを **ブルーパブ ムーンライト**

P.9 多国籍の輪が広がるレストラン **フジマルサイゴンプロパガンダ**

P.10 川崎が盛り上がっている！ **カワサキ文化会館**

P.12 川崎のナイトタイムエコノミー **チッタの夏祭り・川崎夜市**

P.13 飲み歩きで商店街を守り、盛り上げる **ふらっと1000Bero in 武蔵新城**

P.14 川崎は俺達が守る **ご当地ヒーロー大集合！**

P.16 地域の中から発信 **かわさきFM**

P.16 頑張る子どもたちといっしょに元気なまちに **かわさきスペシャルサポーター『sumika』**

P.17 音楽を頑張る若者たちを応援 かわさきスペシャルサポーター **『SHISHAMO』×軽音楽部の高校生**

P.18 映像を通して川崎を盛り上げたい **「映像のまち・かわさき」推進フォーラム**

P.19 まごころの力でつながり、助け合う **まごころキッチンプロジェクト**

P.20 これからの川崎への思いを、市長に聞く ソトコト編集長 **指出一正**×川崎市長 **福田紀彦 特別対談**

P.22 おいしい採れたて野菜で市民が健康に！ **農あるまちづくり部会**

P.23 緑、空、川、海。すべてが繋がる川崎へ **とどろき水辺の楽校**

ACTION 03 ビジネス・インキュベーション　ACTION 08 サスティナブル

川崎が国内外の人々の「健康」や「医療」の発信地に

キングスカイフロント

川崎の臨海部は約100年前、起業家・浅野総一郎が開発を推進し、発展。このエリアを「川崎の文化の発祥地」「川崎の誇り」と言う人も少なくない。

経済成長の一翼を担ってきた大手製造業の工場群の老朽化がすすむ中、川崎区殿町の『いすゞ自動車川崎工場』の跡地に造られたのが、研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点『殿町国際戦略拠点 キング スカイフロント』（通称：キングスカイフロント）だ。

『キングスカイフロント』には、世界的な成長が見込まれるライフサイエンス・環境分野を中心に、国の研究所や民間企業など、70以上の研究機関が進出している。

川崎臨海エリアに造られた『殿町国際戦略拠点 キング スカイフロント』。「キング」は、「Kawasaki INnovation Gateway」の頭文字と「殿町」の地名から。「スカイフロント」は、羽田空港の目の前の立地や、このエリアが世界につながっていることから命名された。羽田空港までは、多摩川スカイブリッジを使い車で5分。

立ち上げから約10年間、マネジメントに関わる川崎市臨海部国際戦略本部の嶋村敏孝さんは、「さまざまな分野の研究者が集まり、新薬や最先端の治療方法など、『キングスカイフロント』での研究成果が全国に広がっていけば」と考えている。

嶋村さんらは2011年、何もない土地への企業誘致からスタート。現在は優れた研究者を集めるため、研究者向けのイベントを行ったり、ベンチャー企業と製薬会社を取り持つような場を設けたりするなど、『キングスカイフロント』のマネジメント業務を行っている。「医療機器や新薬の開発、治療方法の確立などを促し、健康増進、再生医療、長寿などの研究・発展というライフサイエンスにおいて、臨海部は重要なエリアです」と、臨海部の役割を語る嶋村さん。

「川崎は音楽やスポーツなどが盛んでワールドワイドに活躍をしている人材を輩出しているイメージ

K²タウンキャンパスでは健康医療分野、環境分野、エネルギー分野など未来社会を拓く先端的な研究が推進されている。

があります。ライフサイエンスの一大拠点である『キングスカイフロント』と同じように、川崎臨海部から新たな産業が生まれ、国内外で多くの人の幸せに役立てれば、うれしく思います」と、川崎の未来について話してくれた。

国際戦略拠点を生かしてイノベーションを創出

また企業だけでなく、大学などからも川崎市や川崎臨海エリアへの注目度は高い。

2016年4月『キングスカイフロント』内に開設された『慶應義塾大学 殿町タウンキャンパス』は、キングスカイフロントのほかの企業や研究機関と連携・協力し、「長寿クラスター」の研究や、「科学技術振興機構リサーチコンプレックス推進プログラム」を活用したウェルビーイングの研究などを推進している。

そもそも慶應義塾大学はそれ以前の2000年4月、「新川崎・創造のもり」に川崎市との協働で「新川崎（K²〈ケイスクエア〉）タウンキャンパス先端研究教育連携スクエア」を、産官学連携による研究開発の拠点形成を目的に開設している。

「K²」という名称は、慶應義塾大学（K）と川崎市（K）が協力し、2乗の効果を生み出すことを意味している。「先端的研究教育の推進」「新産業・新事業の振興」「社会・地域への貢献」という相互に関連する3つの理念を柱として、時代を切り拓くさまざまな研究活動を展開しているのだ。

『慶應義塾大学 新川崎先端研究教育連携スクエア』事務長の高橋剛（たかし）さんは川崎市について、「産官学連携で大学における先端研究の成果を社会実装することができた。これからも、持続可能な社会モデルを川崎市から発信し、日本のみならず世界に貢献できる自治体となるよう、SDGs、ひいては"Beyond SDGs"に向かってさらなる協力関係を築いていきたい」と話してくれた。

—研究の内容

小動物用のMRIやCTなどのイメージング機器を用いて、病気を見つけたり、新しい治療法の効果を調べたりしています。特に、精神疾患や認知症に関わるメカニズムを調べています。

公益財団法人 実験動物中央研究所
ライブイメージングセンター
画像解析研究室 室長
小牧裕司さん

—『キングスカイフロント』について

ライフサイエンスに関わる多様な専門家が集まっており、イベントも多く共同研究へつながりやすいと感じています。それぞれの専門分野は違いますが、病気の理解と克服という共通の目標を持って団結しています。

—今後の夢や目標

留学希望者があふれるような、世界中から注目されるMRIの研究室にしたいです。そのために、私たちにしかできない高い専門性を持った研究をこれからも続けていきたいと考えています。

—川崎について

商業施設がまとまっていて、まちに多様性があり川崎に行けばなんでも揃うイメージがあります。また、子ども向けの施設も多く、週末はよく家族で出かけます。

—川崎でお気に入りの場所

学生時代から15年以上通っている高津区の美容室『Rochefort hair』がお気に入りです。植物好きの店主が育てている草花に囲まれて、ゆったりとした時間が流れるプライベート空間に、いつも癒されています。

最先端の研究をするおふたりに KSF（キングスカイフロント）や川崎の魅力についてうかがいました！

—研究の内容

脳腫瘍のような難治性疾患を治療するためのナノマシン（ナノメディシン）の研究をしています。そのほか、肥満や関節リウマチ、老化などのためのナノマシンも。「人々の生活を豊かにするための開発」が私の研究です。

—『キングスカイフロント』について

2015年以降、KSFエリアが成長するのを見てきました。このエリアは大きく発展し、一方で多摩川沿いには、きれいな建物や緑が多く、公園もあります。こうした素晴らしい環境で働けることを光栄に思っています。

—今後の夢や目標

病気によって亡くなる人がいなくなること、人々が病気の恐怖から解放されることが夢です。

—川崎について

川崎市は、モダンで活気のあるまち。川崎駅や新川崎駅から東京駅までは約20分、横浜へも約10分でアクセスできます。川崎での生活は便利で、特に川崎駅周辺には、ブランド品から子どもの学用品、食料品まで生活必需品がすべて揃い、外国人にとても優しいまちだとも感じています。

—川崎でお気に入りの場所

家の近所の新川崎周辺です。歩道橋からは、武蔵小杉の高層ビル群の美しい風景、反対側の高台からは『夢見ヶ崎動物公園』が見えます。また『コトニアガーデン新川崎』付近は便利な施設も多く、安心です。

公益財団法人 川崎市産業振興財団
ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）
副主幹研究員
Quader Sabinaさん

ACTION 02 ブランディング　ACTION 05 名物フード

100周年メッセージ

地域の人情を感じるまちです。これからもお客さまと歩んでいきます。

川崎ゆかりの名称を楽しみながらクラフトビールを！

ブルーパブ ムーンライト

上／代表の浅野悦子さん。「地域の人に支えられて営業しています。おいしいビールを造って恩返しします」と話す。右下／定番のクラフトビール「スピカ」（手前）と「登戸の渡し」（奥）。左中／壁にはビールの特徴が一目でわかる図表を掲示。左下／持ち帰りできる瓶ビールも販売。

「津久井道」や「登戸の渡し」、「稲毛三郎」など、川崎市ゆかりの地名や武将などの名前を冠したクラフトビールを楽しめる『ブルーパブ ムーンライト』。2009年、川崎市内初のブルーパブ（ブルワリー＆パブレストラン）として登戸にオープンし、現在は小田急線・生田駅北口から徒歩3分ほどの場所で営業をしている。

「ユニケグ」方式という約20リットルの小型発酵・熟成樽でビールを醸造するため、少量で多品種のビールをつくることができる。爽やかな味わいのものからビター系、ストロング系などさまざまな味わいのビールを生み出しており、それぞれの名前は地元客の声を取り入れて決めている。

また、市内の農園で生産されているナシやモモ、ブルーベリー、ユズ、新生姜など旬の果物や野菜を使った「季節のビール」もつくっており、人気が高い。

代表の浅野悦子さんは、「クラフトビールでまちを活性化することを目指していました。再開発で移転しましたが、創業したときの店舗はシャッター商店街の解消を目指し、『商店街の飲食店で食事をしてから最後にビールを1杯』というコンセプトで、立ち飲み、フードメニューはなしというスタイルでした」と話す。

その思いは今も受け継がれ、できるだけ地元産の食材を使ったり、気軽においしいビールを楽しんでもらえるよう、ビールは1杯300円（Sサイズ）から提供している。

ビール酵母で発酵させた生地のピッツァや自家製小籠包、水餃子などフードメニューもおすすめ。鶏レバー黒ビール煮はプロの料理人たちもうなる味だとか。

㊟川崎市多摩区生田7-11-8 ㊍月・水・金16:30～22:30（L.O.22:00）、土・日・祝12:00～21:00（L.O.20:30）㊡火・木

http://brewpub-moonlight.co.jp

ACTION 05 名物フード　ACTION 11 グローバル

100周年メッセージ

国籍や立場を超えて、さらにコミュニティの輪を広げていきたいです。

駅近の小さな店から、大きなコミュニティの輪が広がる

フジマルサイゴンプロパガンダ

JR武蔵溝ノ口駅からほど近いベトナム料理店『フジマルサイゴンプロパガンダ』。わずか5席の小さな店を切り盛りするのは、イラストレーターの藤原ヒラメさんだ。店内は藤原さんが描いたポップなイラストが壁一面に。「ベトナム戦争時代と、現代の平和なベトナムの様子」をイラストに託したのだとか。

オープンは2019年。そして今や、この小さな店から洋の東西、老若男女を問わずコミュニティが生まれ、広がっている。おひとりさまでも客同士が仲よくなったり、近くの音大の留学生など外国人の間で「店主が気さくに話してくれる」と口コミが広がったりして、人が集まってくる。

「高津区育ちの私が実感するのは、昔から外国人が多いということ。そのせいか、まちが大らかでゆるいんです」と藤原さん。多国籍や障害を持った人が集まるイベントを定期的に開催。来場者同士で協力して盛り上げたり、自然と"お困りごと"を相談し合ったり。常連客いわく、「実家のようにくつろげる」と評判も上々だ。

また、児童養護施設への寄付など、社会貢献活動も実施。一筋縄ではいかない問題もあるという。けれど、「人と人の輪が川崎のまちいっぱいに広がるとうれしい」と、藤原さんは今日もキッチンで仕込みの手をせわしく動かす。

ヒラメさんのお母さんと、アメリカフリークのお父さんが近隣で営むクラフトビール専門店の2号店として開かれた、ベトナム料理と酸っぱいクラフトビールの店。酸味のあるビールは、ベトナム料理に合うのだそう。

tel.044-571-2538

㊟川崎市高津区久本2-1-9 沓内ビル

https://note.com/fujimarumama/n/n299f33ca1036

上／後ろに立つのが店主の藤原ヒラメさん。（奥から）パンづくりは玄人はだしのアメリカ人通訳者のブライアンさん。昨年、中国から来日した美大大学院生の陳さん、2018年に来日したベトナム人建築家のヒエンさんと、友人のランさん。皆、月に何度も通う常連さんだ。右／名物料理の「牛たたきのフォー」。

川崎が盛り上がっている!!

Breakin'

上／自身も選手としてブレイキンの大会に出場するNICOLASさん。カワサキ文化会館内のスタジオでブレイキンの特徴的なスタイルを披露してくれた。　左／ブレイキンのスクール『BREAKING ACADEMY』を運営する会社『IAM』の酒井達郎さん（右）。6歳～30歳までの生徒が所属するブレイキンスクールで講師を務めるNICOLASさん（左）。2人とも『THE FLOORRIORZ』のメンバーでもある。

「川崎」ではなく「カワサキ」――そんなカタカナのネーミングにも若者文化の発信拠点を感じさせる『カワサキ文化会館』。プロバスケットボールクラブ「川崎ブレイブサンダース」が運営しており、オフィスやカフェのほか、3×3を含むバスケットボール※やBMXフリースタイル、ブレイキン、ダブルダッチ、eスポーツが体験・交流できる場として、「新しい若者文化の創造」を目指している。

運営管理を行う『DeNA川崎ブレイブサンダース』の松本紘樹さんは、「古今の文化が入り混じる川崎はいろいろな意味でポテンシャルがあり、ワクワクします。『カワサキ文化会館』の周りの少し雑多な印象が残る点も若者の発信地としてぴったりです。施設は3年の期間限定、2025年でクローズ予定となっていますが、その後もストリートカルチャーが発展、定着していけばいいと思います」と話してくれた。

館内ダンスエリアでは、ダブルダッチで世界チャンピオンの経歴をもつ『REG☆STYLE』、川崎市がホームタウンのプロeスポーツチーム『SCARZ』、川崎市で活動する世界的ブレイキンクルー『THE FLOORRIORZ』が連携し、スクールの運営やイベントが行われている。

『IAM』が運営するスクール『BREAKING ACADEMY』で講師を務めるNICOLASさんは、ハワイ生まれの横浜育ち。以前は別の場所を拠点にしていたが、今は川崎を拠点に活動している。川崎は多様性や許容性を強く感じるまちだと言う。「生徒の中には、パリ2024オリンピックのブレイキン種目を視野に入れている子もいます。個人的には全員をカッコよくしたい。川崎市はストリートカルチャーの育成や普及にとても好意的、かつ協力的です。『カワサキ文化会館』を通じてアートやカルチャーを発展させることができれば」と話してくれた。

※ハーフコートや3×3の正規コートサイズには満たないため、3×3体験スペースとして運営。

「カワサキ文化会館」。若者文化創造発信拠点を整備・運営する事業として、川崎市に2022年に採択された。
Xアカウント：@kawa_bun_kan　写真提供：カワサキ文化会館

ACTION 04 ネクストジェネレーション　ACTION 13 スポーツ

2022年8月、京急本線・京急川崎駅近くに開業した『カワサキ文化会館』。いま、若者文化の創造発信拠点としてアツい注目を浴びている。

Double Dutch

プロダブルダッチチーム『REG☆STYLE』よりメッセージ

川崎は僕たちにとって聖地のような場所です。そしてカワサキ文化会館は、スキルアップの場であると同時に憩いの場所でもあります。

市民も、ストリート系、サブカルチャー好きの方なども分け隔てなくつながりやすい雰囲気も川崎の魅力です。

我々『REG☆STYLE』は世界大会3連覇を経て、より多くの方にダブルダッチを知ってもらう為に日々活動しております。近い将来にダブルダッチがオリンピックの種目に選ばれること、そして川崎がダブルダッチの中心になることを願っています。

e-sports

eスポーツチーム『SCARZ』よりメッセージ

『SCARZ』は川崎を拠点とし、2012年から活動しているプロeスポーツチームです。約50人のプロ選手を抱え、eスポーツのオリンピックへの出場や現在、国内でもっとも人気のパソコンゲーム「VALORANT」で日本1位、APAC地域2位という実績を残しています。

幸区で行われた「さいわいeスポーツフェスタ」では、フードドライブを実施するなど、運営元の『XENOZ』が川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsゴールドパートナー」企業として次世代の子どもなどを対象に地域活動も行っています。

ACTION 07 ナイトタイムエコノミー　ACTION 09 イベント・祭

100周年メッセージ

企業にとっても良いまち。国内外から人が多く集まる場所にしたいです。

市と企業がタッグを組み、イベントで川崎駅前に人を呼ぶ

チッタの夏祭り／川崎夜市

上・左下／市の内外から集まる若者のほかに、日本在住の外国人や海外からの観光客も多い「チッタの夏祭り」。コロナ禍後、今年8月、4年ぶりに開催。右下／アジアをイメージしたチッタオリジナルの“夜市”。約70店の屋台が軒を連ねた。
https://lacittadella.co.jp/lp/natsumatsuri

川崎駅前を代表するランドマークのひとつといえば、映画館やライブホールなどを擁する複合商業施設『ラ チッタデッラ』（以下、チッタ）。大正時代創業の『チッタグループ』が2002年に開業した施設で、それから20年以上、人々に親しまれている。

市内外から人が集まるこのチッタで夏～秋に開催される大きなイベントが、「チッタの夏祭り」と「川崎夜市」だ。

今年8月、18回を数える「チッタの夏祭り」は4年ぶりの開催。規模が拡大し、若者や外国人も増え、今でこそ駅前最大級だが、始まった当初は、櫓を建て盆踊りをするような地元住民の憩いのイベントだったそうだ。『チッタ エンタテイメント』の広報・谷田部陽平さんは「アジアの夜市をイメージし、屋台も約70店ほど出店。オリジナリティあふれるチッタらしい演出を心掛けた」と言う。

一方「川崎夜市」は、地域の商店街や企業主体で地元グルメや川崎のソウルフードを楽しめるイベント。第1回は2022年11月22・23日、『チッタグループ』と川崎市とのコラボレーションによって実現した。「名物を市の内外に周知し、将来的には海外の観光誘致にも」と谷田部さん。また「東京と横浜の間の川崎は両方のいいとこ取りで、人もフレンドリー。そうした魅力も伝えられるイベントにできたら」とも語る。

昨年11月22日・23日に初開催した「川崎夜市」では、地元グルメなどを楽しめる。『チッタグループ』と、来年川崎市制がそれぞれ100周年記念で実現。https://lacittadella.co.jp/lp/kawasakiyoichi

ACTION 07 ナイトタイムエコノミー　ACTION 09 イベント・祭

100周年メッセージ

武蔵新城の商店街がもっと活性化し、人が集まるまちにできたらとみんなでがんばります。

商店街を守りながら、飲み歩きイベントでまちを盛り上げる

ふらっと1000Bero in 武蔵新城

上／「ふらっと1000Bero in武蔵新城」の実行委員長で創業約50年の焼鳥店『近江屋』の2代目主人・松本染五郎さん（右）と、企画、運営に尽力するリーダー・石井秀和さん（左）。今年9月にもイベントを開催。右／『近江屋』の前回の「1000Bero」メニュー。
https://shinjo1000bero.com

生まれ育った川崎市の中部エリアである武蔵新城のまちや商店街を活性化したいと思い、溝口の商店街とも連携を取りつつ、年2回、各店1000円のメニューを用意して、お客様が飲み歩きを楽しむイベント「ふらっと1000Bero in 武蔵新城」を立ち上げた運営メンバーが、不動産管理などを営む石井秀和さんだ。

「この地域は、昔は一帯が農地で、その後、沿線企業の社宅が立ち並び、個人商店が増えました」と石井さん。武蔵新城駅ができて課題になっているのが、住んでいる人は増えたものの地元の商店街を利用しない人が多いということ。そこで、エリア価値の向上や地元でゆっくり飲んでもらいたいという思いで2016年から始めたのがこのイベントだ。

コロナ禍後に初めて開催したときは、64店舗が参加、SNSでの告知効果などもあり、駅の南口、北口などの商店街合わせて延べ1000人くらいの飲み歩きイベントとなったそうだ。

今年9月には、地元以外の人も来やすいようにと、日曜日から5日間開催した。

「1000Bero」と聞くと「1000円でお酒とおつまみで安く楽しく酔える」という印象だが、住民には若い女性や子どもも多く、居酒屋だけでなく、ボディケアの店や、とんかつ店、カフェ、理容店なども参加。昼間に期間限定で1000円で楽しめるコースもあり、まち全体でのお祭りやフェスというイメージだ。

「この地域の小学校では運動会も学年を超えてチームづくりをするので、卒業後も年齢問わず、親交があるんです」と語るのは、実行委員長で焼鳥店の主人・松本染五郎さん。

「店同士も仲がよく、あの店で『1000Bero』やっているよと他店の状況をお客さんに教えて、お客さんがハシゴしたり。そうしたまちの気風がこのイベントを支えています」と石井さんは語る。

川崎は俺達が守る

川崎には、各地域で活躍するご当地ヒーローがいるぞ！
今回は、タージマン、イクター、カキライザーの3人を紹介するぞ！

仮面ウォーカー イクター

自己紹介
生田地区町連合会の「イクターアルバチャコフ」だ。多摩区・生田地区の平和を守る、仮面ウォーカーだよ！

特技・必殺技
生田地区のパトロールをしているよ！　必殺技は、「イクターショット」だ。あと、地域のイベント情報を「X（旧Twitter）」で発信しているよ！

プロフィール
いつも、徒歩で移動しているよ。川崎市の好きな場所は日向山。生田のまちをよく散歩しているよ。

仮面ウォーカー タージマン

自己紹介
田島地区の、さらには川崎区の交通安全を守るため、遥か彼方の「タージ星」からやってきた、交通ルールを教えるタージマンだ！

特技・必殺技
川崎区、田島地区の交通安全教室や各種イベントに参加、交通安全を幼児から高齢者まで、体を張って教えているぞ！

プロフィール
正義感が強く、気は優しくて曲がったことは大嫌い。弱点もあるけど教えない（実は赤い光を見ると、一度止まってしまう）。

柿生（かきお）の戦士 カキライザー

自己紹介
川崎市麻生区下麻生の「柿生」でご当地ヒーローをやっているよ！

特技・必殺技
勝手にアンバサダーをして地域のいいところを紹介したり、イベントに参加して盛り上げているよ！　ゴミ拾いが必殺技かな。

プロフィール
好きなもの：柿　柿生で好きな場所：全部　好きなこと：楽しいこと全部！　人が困ってたら見過ごせない！　良くも悪くも真っ直ぐで正直な性格！　全人類、友達になれると思ってる。

ACTION 02 ブランディング　ACTION 10 Well-being

100周年メッセージ

これからもマスメディアでは伝えられない情報発信で地域を支え続けます。

地域の中から発信する、開かれたラジオ局であり続けたい

かわさきFM

大西絵満（おおにし・えま）●2009年、『DeNA』入社。新規事業立ち上げ、ゲームプロデューサーを務め、HR本部で採用責任者などを歴任。2021年、出向で『かわさきFM』の代表取締役に就任。川崎市市制100周年・緑化フェア実行委員会 幹事。

今年で開局28年の『かわさきFM』。川崎市の魅力や今後の展望について、代表取締役の大西絵満さんに話を聞いた。

◆

『かわさきFM』は市政情報、お出かけ情報、スポーツ情報などを24時間で発信しており、特に災害時、マスメディアでは伝えられない地域の災害情報発信が大切な役割になっています。川崎は地域の皆さんが非常に温かく親切だと感じます。川崎に転入された人、転勤してきた人などに対してもオープンでウェルカムなところが魅力でしょうか。町内会や商店街の集まりやお祭りに行って話してみると、まちの人たちが惜しみなく情報提供してくれたり協力してくれたりします。『かわさきFM』も年々コラボさせていただく企業や団体が増えていますが、地域のコミュニティや趣味の活動に参加すると、より街の人たちの温かさを感じるんじゃないかなと思います。

今年復活した「高校生バンド王」は、市制100周年のプレイベントとして始まったものです。コロナ禍で学生時代の時間が失われてしまった高校生たちに、豊かな体験を提供できればという思いで進めていました。そこから派生した「大人のバンド祭」も大きな反響があります。地域の人々が楽しみながらつながり、より良く過ごしていける場を提供できたらと考えています。

頑張る子どもたちといっしょに、元気なまちにしたい！ かわさきスペシャルサポーター『sumika』

僕たちの好きなまちだから、このまちの若い人たちを応援していきたい――。

川崎市出身のロックバンド『sumika』が、「かわさきスペシャルサポーター」として、「音楽のまち・かわさき」のイメージキャラクター「かわさきミュートン」とのコラボによる若者応援プロジェクトを進行中だ。ボーカルの片岡健太さんは「文字どおり苦楽を共にしてきた故郷から、新たな『おもしろい』が始まることを願っています」と語る。今後の展開は、川崎市ホームページやX（旧Twitter）で紹介していく。

川崎市シティプロモーションXアカウント
@kawasaki_pr

ACTION 04 ネクストジェネレーション　ACTION 12 アート＆ミュージック

100周年メッセージ

みんなで音楽を楽しめる未来に向かって、私たちも協力していきます！

音楽のまち・かわさき『SHISHAMO』が若者たちを応援！

かわさきスペシャルサポーター『SHISHAMO』×軽音楽部の高校生

川崎市出身のスリーピースロックバンド『SHISHAMO』と「音楽のまちづくり」を進める川崎市が協働し、市内の若者たちに向けた「特別版バンドスコア」（バンド用の楽譜）を制作した。市内の中学校・高等学校、『こども文化センター』、『川崎市子ども夢パーク』に約300部が配架され、活用されている。

『SHISHAMO』はもともと、市立川崎総合科学高等学校の軽音楽部のメンバーで結成されたバンド。在校中から音楽業界で注目されるようになり、2013年春の高校卒業後、同年11月にCDデビュー。17年末には「第68回NHK紅白歌合戦」にも出場した。現在は「かわさきスペシャルサポーター」を務めている。

バンドスコアには『SHISHAMO』厳選の5曲を収録。そのうちの「恋する-10 YEARS THANK YOU-」は譜面として初公開されたものだ。

ギターとボーカルを担当する宮崎朝子（あさこ）さんは「私たちも川崎の高校でコピーバンドとしてスタートしました。音楽が好きで、音楽を頑張る若い人たちを応援したくてバンドスコアをつくらせていただきました」と思いを話す。

譜面には「キメが多いのでドラムをしっかり聴いて合わせるとかっこよくなるよ！」など、演奏時のワンポイントアドバイスがメンバーの顔イラスト入りで添えられている。先輩から直接アドバイスされるような気分になるバンドスコアだ。

川崎市庁舎で2023年7月末、バンドスコア「SHISHAMO BAND SCORE～KAWASAKI SPECIAL SUPPORTER EDITION～」贈呈式が行われた。市立高津高等学校軽音楽部、県立川崎高等学校軽音楽部の生徒たちが市内の学校を代表して出席し、『SHISHAMO』と福田紀彦市長からバンドスコアが手渡された。生徒たちからは「みんなでどんどん使わせていただき、次の代にも引き継いでいきます!」とお礼の言葉が返された。また『SHISHAMO』からは、「このバンドスコアが未来に受け継がれ、曲が演奏され続けてくれたらステキなことです」と、バンドスコアに対する思いを語った。

ACTION 02 ブランディング　ACTION 12 アート&ミュージック

100周年メッセージ

映画のまちから、未来の映像関係の人材が大勢羽ばたきますように。

映像を通した幅広いアプローチで川崎を盛り上げたい!!

「映像のまち・かわさき」推進フォーラム

2つの音楽大学や優れた音響のホールを有する川崎市は「音楽のまち」として高い知名度を誇る。一方、映画ファンなどから「川崎は、映像のまちとしてもふさわしいのではないか?」との声が次々と挙がったのが16年前。当時、川崎駅前は全国でスクリーン数が最多で、麻生区には名監督・今村昌平が設立した唯一の映画専門大学『日本映画大学』がある。その関係もあって映画や映像関係の仕事に従事する住民も多いのだ。

「提言をまとめ、当時の市長に提出し、2008年に『映像のまち・かわさき』推進フォーラムが発足しました」と話すのは立ち上げに参加した寺川香苗さん。

推進フォーラムの活動は主に3つ。1つ目は、子どもを対象にしたワークショップで、映像制作を経験してもらい、映像を読み解く力を培う人材育成。2つ目は映像関連イベントで地域の活性化を応援すること。そして実は川崎はロケ場所の宝庫。地の利を生かしたロケ場所の誘致を長年行っており、川崎で撮影された映像作品の紹介などの情報発信を行うことが3つ目で、ロケ誘致は、寺川さんらがNPO法人でこの事業を請け負っている。

現在、寺川さんの長女の寺川小百合さんも運営に携わっている。川崎の魅力を尋ねると、寺川さんは「人が温かいところ」。小百合さんは「都会だが懐かしさがあり、居心地がいい」のだとか。アプローチは違うが「未来の映像・映画人が育ち、さらに映像のまちとして発展してほしい」とお互いに夢を抱き、日々活動に励む。

CMコンテストの表彰式の様子。

推進フォーラムでは映画のロケ地ツアーや「かわさきシネマアワード」など映像関連のイベントが盛りだくさん。市内外から映像ファンが集まってくる。

「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの事務局の寺川小百合さん。お父さんは『日本映画大学』の職員だったそう。お母さんの香苗さんとともに、川崎を「映像のまち」として盛り立てる。

「映像のまち・かわさき」推進フォーラム
www.eizonomachi.com

ACTION 10 Well-being　ACTION 15 安全・安心

100周年メッセージ

いざ! という時に最小限の被害で済むように市民で協力できるまちに。

いざ! という時に"まごころ"の力でつながり、助け合う

まごころキッチンプロジェクト

代表の小野さくらさんは本業の介護福祉士の資格のほか、防災士、防災備蓄収納プランナーなど防災関連資格を多く取得し、啓蒙活動に役立てている。

あるときテレビで、福井県の大雪によって、立ち往生する車の車内に残された人たちに近隣の飲食店が食事を提供するニュースを家族で見ていた介護福祉士の小野さくらさん。ラーメン店を営む夫・貢一さんとの「災害時に川崎の飲食店がつながって、困っている人を助けられたらいいよね」という何げない会話から始まったのが、小野さんが代表を務める「まごころキッチンプロジェクト」だ。

「大きな災害時に、例えばラーメン屋には麺はあるけど牛乳はないし、お米もない。だったら近隣の飲食店と協力して料理をつくり、困っている人の助けになりたいと思いました」と小野さん。

一見、飲食店が被災した人に食事を提供するだけのプロジェクトに見えるが、そこには「困った人を孤立させない、ひとりにしない」という大きな意味が「まごころ」というプロジェクト名に込められている。

また、いざ、災害が起きた時は慌てたり、予想外の状況でなかなかうまくいかないもの。そのため、小野さんは夫婦で防災士の資格も取得し、行政などの救助の一歩手前のサポートを広く伝える。災害が起きたら「まず何をすべきか、どうしたら生き延びられるか」というワークショップやシミュレーションを定期的に行っている。

その内容は、家にあるものでつくれる簡単な料理を紹介する冊子の作成、簡易トイレの使い方、避難所での生活など多岐にわたる。仮に被災した場合も、弱い立場の人を皆が助け合うことができれば減災できるという信念で、このプロジェクトを推進している。

小野さん自身も活動を通して気づきや学びがあるという。こうしたことをもしもの時に生かしたいと切に願うのだ。

上／「もしもの時に"おいしく"備えるレシピブック」なども市の補助金などで発行。下／災害時にカセットコンロでつくる調理をレクチャー。
https://magokoro-kitchen.org

『ソトコト』編集長

指出一正 × 福田紀彦

川崎市長

川崎市が持つ多様性の価値を次の100年へもつなげていきたい

2024年に市制100周年を迎える川崎市。川崎市のこれまでの歩みやこれからの未来への思いを川崎市長に聞くと、外からの人たちも温かく迎え入れる懐の深さや、住民の多様性が、街の住みやすさにつながっていることを知ることができた。

福田紀彦（ふくだ・のりひこ）●川崎市立長沢小・中学校卒業後、渡米。米国アトランタ・マッキントッシュ高校卒業。米国ファーマン大学卒業（政治学専攻）。2003年神奈川県議会議員に最年少で初当選。2007年再選。早稲田大学マニュフェスト研究所・客員研究員、県知事秘書などを経て2013年、川崎市長に初当選。2021年、3期目当選。趣味は料理。妻、長女、長男、次男の5人家族。

指出一正（さしで・かずまさ）●ソトコト編集長。上智大学卒業。島根県「しまコトアカデミー」メイン講師、群馬県庁31階「ソーシャルマルシェ&キッチン『GINGHAM（ギンガム）』」プロデューサーなどを務める。内閣官房、環境省、国土交通省、総務省、農林水産省など行政の各委員、民間委員を歴任。大阪・関西万博日本館クリエイター、BS朝日「バトンタッチ SDGsはじめてます」監修。著書に『ぼくらは地方で幸せを見つける』（ポプラ新書）。

指出　今朝は川崎駅から市役所通りを歩いて来ましたが、緑がとてもきれいで歩きやすかったという印象です。

福田　川崎駅周辺は再開発で変貌を遂げました。しかし土地が持っているDNAといいますか、人情深く、来たばかりの人々も歓迎しますし、出て行った人ともつながりを保つ。市と関係してくれる人々に優しいところがあります。

指出　都市部にありながら人情味があるのは魅力的ですね。

福田　もともと川崎は400年前頃に東海道の川崎宿として生まれたまちです。人やあらゆるものが集まり、通過していくことに慣れている。変化に対して臆病ではないといいますか、多様なものを受け入れていた空間でした。それが現代にも残っているように感じます。だから市民からは、再開発であまりきれいにしすぎないほうがいいのではという声もあります。完璧に整った都市開発より、昔ながらの路地や飲み屋街も少し残っていたほうがいいといいますか。

指出　なるほど。僕は釣りをしますが、川は蛇行している部分があるから、そこで生き物が生息できる。人間もまちに完璧ではない部分があったほうが住みやすいのかもしれませんね。さて、この度の市制100周年に対する思いをお聞かせください。

福田　川崎は人口約5万人から始まって、現在は約154万人まで発展を遂げました。このように発展したのは、もともと多様性があったため国内外からさまざまな人々が来やすかったからだと思います。これからもその多様性を大切にしていきたいですね。

指出　まちに多様性があるのは魅力的ですね。ほかに川崎の魅力ってどんなところでしょうか。

福田　私は7区ある行政区がそれぞれ違う特徴を持っているところがおもしろいと思います。ひとつの市に海、川、丘、山、高層ビルがあり、まるで日本列島の縮図のようです。

指出　それはおもしろいですね。これから川崎市がどのようなまちになっていってほしいですか。

福田　今は大構造転換の時期。しかしながら変化に対して寛容であることは、新しい産業が生まれやすいことでもあります。また新たな産業や文化が始まっていけばいいなと考えています。

指出　これまで培った経験値を重ね合わせながら、これからの100年もつくっていけたらいいですね。

福田市長と指出編集長の対談の全文はソトコトのホームページに掲載しています。右の二次元バーコードからホームページへ。

https://sotokoto-online.jp/diversity/19625

ACTION 01 グリーン・コミュニティ　ACTION 02 ブランディング

100周年メッセージ

まちと農家が共存する川崎。次の世代にバトンをつないでいきます。

住むまちの足元を見つめると、都市農業の活用が無限に広がる

農あるまちづくり部会

「私は川崎に住み、10年前までは東京に通勤するいわゆる”川崎都民“でした。子どもが大きくなり、農業に関する仕事をしていた関係もあり、この活動に興味をもちました」と語るのは、宮前区の市民活動「農あるまちづくり部会」に6年前から参加する、部会長の清水まゆみさん。

清水さんは住んで久しい川崎市のことを何も知らないと感じていたところ、たまたま「市政だより」で公開講座の募集を目に留めた。自身が住む宮前区での地場野菜を使った料理コンテストを運営する市民団体の案内チラシをもらって参加し、それがきっかけでこの活動を始めていくようになった。

「川崎にも農地は残り、特に麻生区と、私の住む宮前区は農業が盛ん。多くの農産物や花きを作っているんです」

地域貢献活動や食育に深い関心を抱いていた清水さんは、都市農業に無限の可能性を見出す。現在、「農あるまちづくり部会」は「宮前区まちづくり協議会」の一部会として「農家巡りウォーキング」や「みやまえ農フォーラム」などのイベントを実施。地元農業の今を知り、農家とのふれあいを積極的にすることで、緑多い都市の環境が区民の生活と調和する豊かなまちづくりを目指している。

そして清水さんのもうひとつのライフワークが、川崎の伝統野菜「のらぼう菜」の普及、継承である。のらぼう菜農家の故・髙橋孝次さんと出会い、そのおいしさとのらぼう菜への思いを聞き清水さんも心酔。栽培方法をはじめ、この伝統野菜を未来へと残したいと考えている。

これまで川崎に住む先達（せんだつ）が心を砕いてきたこの「農あるまちづくり部会」で、まちとみどりが共存する「川崎の都市農業の素晴らしさ」というバトンを次世代へと渡していきたいと願っている。

清水さんの住む宮前区は、農地が残り、住宅地を背景に、農地が広がる景色がよく見られる。

清水まゆみさん。都市計画制度で定められた「生産緑地地区」にて。「おいしい採れたて野菜で市民が健康に!」が目標。

野菜の無人販売が増える宮前区で、有人販売を続けている『小川農園』。「地元の方とのコミュニケーションも楽しい」と『小川農園』の小川良子さんは言う。

ACTION 01 グリーン・コミュニティ　ACTION 14 学び

100周年メッセージ

都市を流れる多摩川、そして緑や空。100年後も美しい川崎であってほしいです。

緑、空、川、海すべてがつながる川崎へ

とどろき水辺の楽校

川崎市の北から南へ悠々と流れる、自然豊かな多摩川。

「川崎」という地名は、多摩川がつくった河口のデルタ地帯（崎）という地形に由来するといわれている。川崎市内を流れる多摩川は、まさに川崎にとって”母なる川“なのだ。多摩川に寄り添いながら川崎のまちは育まれ、発展してきたと言っても過言ではない。

2024年秋と25年春に開催される「全国都市緑化かわさきフェア」の会場となる等々力緑地を一緒に盛り上げる河川協力団体『とどろき水辺の楽校』事務局の代表幹事・鈴木眞智子さんも、川崎市とは切っても切れないこの川を愛する「多摩川ラバー」だ。その愛は川のように深く、名刺に本名と併記して「多摩川眞智子」と記すほど。

鈴木さんが活動に関わるようになったのは、1998年に川の土手に子どもと一緒に桜の植樹をするプロジェクトに参加したのがきっかけ。今では、多摩川と等々力緑地をつなぐエリアも整備されて美しい風景が広がるようになったと話す。『緑化フェア』では、個人的に抱いている夢があります。昔から多摩川沿いに自生している植物、特にダイコンの原種とも言われる『ハマダイコン』を植えた一面紫とピンクの花の絨毯が見てみたい」とも言う。

鈴木さんに多摩川の魅力を尋ねた。「川崎市を流れる多摩川は、上流から下流の干潟まで、それぞれ異なる美しい表情を見せてくれます。都市河川でありながら、川周辺は自然の息吹、原風景のようなものが感じられます。時には暴れて猛威を振るうこともありますがそれも自然、生きるものの循環や摂理のように感じます」。

北海道出身の鈴木さんが川崎市に住んで40年あまり。「多摩川は北海道の原野を貫く川とは違います。近代的なまち、豊かな緑、空、海などすべてのものに通じ、多くの人々と共生する証しのような川なのです」と話してくれた。

Green For All KAWASAKI 2024
第41回 全国都市緑化かわさきフェア

「全国都市緑化フェア」は、市民が緑の大切さを知るとともに、緑を守り、楽しむ知識を深め、快適で豊かな暮らしがあるまちづくりを推進するため、1983年から毎年、全国各地で開催されている「花と緑の祭典」。2024年に川崎市が市制100周年を迎えるにあたり、24年秋の10月19日～11月17日と、25年春の3月22日～4月13日に富士見公園、等々力緑地、生田緑地の、市の代表的な3つの総合公園を中心とした会場エリアで「全国都市緑化かわさきフェア」を開催する。

全国都市緑化かわさきフェア
公式ウェブサイト
https://green-for-all-kawasaki2024.jp